

子供たちが命の尊さに心を寄せ、自ら生きる力を高める道徳教育の推進

愛情をもって
動植物を育て
命を慈しむ子供

ふれあいを通して
思いやりの心をはぐくみ
生き方を考える子供

仲間と感動を共有し
自分の存在を
感じる子供

アプローチ 1

総合単元的な道徳学習を展開する中で命の尊さを実感し、命へのかかわりを深める

総合的な学習の時間

道徳の時間

各教科

日々の実践や生活体験を基盤にした総合単元的な道徳学習を展開することで、命に対する多様な感じ方、考え方を引き出し、道徳的実践力の向上を目指す。



特別活動



- ・飼育・栽培活動
- ・本の読み聞かせ
- ・命を話題にした
話し合いタイムなど

日常生活

アプローチ 2

体験活動やゲストティーチャーを活用した授業展開を図る

自然体験の活用

道徳の授業と関連させながら自然体験や社会体験、地域の人々に学ぶ機会を効果的に実施し、人間性の尊重と生命への畏敬の念を培いながら、自らの生きる力を高めていく子供を目指す。



ゲストティーチャー
「生きる力のモデル」の活用

社会体験の導入

アプローチ 3

家庭・地域と連携・融合し、命を大切にする心をはぐくむ

学校、学級での取り組みの公開、情報交換、交流の場の設定等を通して、学校・家庭・地域が目指す方向の共有化を図る。



保護者と
共に考える
「命の授業」

情報や考えを
交流する
学級懇談会



「家庭の日」
の取り組み

各種たより

杉っ子愛レンジャー
こども110番の家

「命」を機軸にした2か年の道徳教育の推進は、子供たちに「生」と「死」の意味を深く考えさせる契機となり、「生命」あるものを慈しみ、敬い、尊ぶ機会となった。その結果、小さな生き物の飼育や栽培への関心が一層高まり、心を寄せながら見事に育て上げる子供が多くなってきた。また、子供同士の信頼関係や対話のある学級風土が形成されつつあり、不登校は見られなくなった。不登校児ゼロの記録も4年目の年度末を迎えて更新中である。更に、子供や教師の命観及び命を大切にする心が、学校・家庭・地域で共有化され、相互の信頼関係がより強くなってきた。